

西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年3月23日現在

今月の重点活動

■ブロッコリー 売上目標五千万円達成

27年産ブロッコリーは、3月11日に出荷終了した。11月から1月上旬まで温暖な気候が続いたことより、ブロッコリーの生育は前進化し、全品種において計画よりも早い出荷となった。

最終出荷量は38,232ケース(前年比120%)、販売額50,889千円(前年比119%)と前年より増収・増益となり、目標金額五千万円を達成した。営農組織での栽培面積が増加したこと、また、品種の切り替わりの進展と肥料改善等により出荷率が向上したことが増収の要因と思われる。今後の課題として、輸送中の品質劣化防止対策を行う等、産地ブランドの向上を行い、契約栽培の維持支援に取り組んでいく。



【26年から導入された品種】

売れる農畜産物づくり

■小麦 生育状況(葉齢前進化)

小麦生育状況は、「イワイノダイチ」、「農林61号」、「さとのそら」ともに葉齢が昨年と比べ2葉齢進んでいる。また、茎立期も、「イワイノダイチ」と「さとのそら」が昨年より10日程度早まり、特に「農林61号」では暖冬の影響を強く受けて約1カ月早い2月中旬となっている。小麦の穂肥は、生育に合わせて昨年より約10日早く、ほとんどのほ場で2月下旬～3月中旬に施用された。

「農林61号」ほ場では、コムギ縮萎病による葉の黄化症状が見られ、今年の特徴は、通常では発症が見られない遅い播種期(11月15日以降)のほ場でも発病していることである。一方、「イワイノダイチ」と「さとのそら」では、葉の黄化は見られず、抵抗性品種の特性が確認された。

■春菊 出荷実績

海津春菊部会では、昨年、定植時の活着不良や炭疽病被害により出荷量が前年比77%と大きく減少したため、今作では新品种の導入やセル育苗の増加等の取り組みを行った。その結果、炭疽病の発生も少なく生育は順調となり、10～2月末の出荷量は前年比125%の23,661csと増加した。しかし、暖冬の影響から11月の単価が39円になるなど単価が前年比72%と低迷したことから、2月末までの出荷金額は前年比90%の5,448万円と苦戦中である。今後、春菊は5月まで出荷予定であるため、品質維持等に関する支援を継続する。

■いちご いちご中間目揃え会の開催

2月16日に平田町苺園芸組合、2月26日に海津いちご部会、2月29日に養老町いちご連絡協議会各生産組織で中間検討会(目揃え会)が開催され、気温が高くなる時期の出荷基準等について確認、目揃えが行われた。農業普及課からは、今後の栽培管理等の情報提供を行った。西濃管内のいちごの出荷実績は、2月末で出荷累計が前年比90%であり、単価は1,248円/kg、前年比98%となっている。

■いちじく **新規栽培者支援**

JAにしみの広報誌でいちじくの新規栽培者を募ったところ、海津市南濃町の2人が新規に栽培を始めたいとの申し出があった。これを受けて2月25日に栽培希望者と部会長を交えての情報交換を行い、その後栽培予定地を確認し、栽培を始めるにあたっての注意事項を説明した。

■かき **組織活動支援**

4月に行われる各生産組合の総会に向けての役員会が、2月14日に養老果樹振興会で、2月23日に南濃柿部会で開催され、総会の内容についての検討が行われた。特に今回は役員改選期に当たるため、次期会長について事務局案が検討された。

農業普及課は、昨年4月と同様の形で高接ぎ講習会を開催すること、新品種の導入、拡大に必要な苗木生産についての必要事項等の情報提供を行った。

多様な担い手の育成・確保

■新規就農育成支援 **就農計画審査会の開催**

2月17日に大垣市青年等就農計画審査委員会が開かれた。委員会は大垣市農林課、大垣市農業委員会、JAにしみの、西濃農林事務所の関係者で構成されている。いちご新規就農者の就農計画が1件、養蜂新規就農者の就農計画が2件提出され、内容を審査した。委員からは計画の内容についていくつかの意見が出され、内容修正がなされた後、大垣市より認定される見込みである。

農業普及課からは、年単位の収支だけではなく、特に1年目は月単位の収支を見積もりするキャッシュフローシートを作成する必要について意見を出した。

■表彰 **岐阜県豆類経営改善共励会最優秀賞の受賞**

輪之内町の(農)本戸営農組合が、岐阜県豆類経営改善共励会において最優秀賞を受賞し、3月16日に表彰式が開催された。(農)本戸営農組合は、平成27年大豆が天候不順により、全県下で不作・低収量となったなか、県の平均単収を大きく上回る収量を確保したことが評価された。全国豆類経営改善共励会の東海ブロックの審査が行われ、全国審査への進出が決定した。



【授賞式の様子】

■表彰 **全国麦作共励会「東海農政局長賞」を受賞**

平成27年度全国麦作共励会において、海津市の(農)札野営農が、集団の部で「東海農政局長賞」を受賞した。その表彰式が3月2日に海津市で開催され、賞状授与が行われた後、受賞団体の営農状況の視察が行われた。(農)札野営農は、県の平均単収を大きく上回る収量を確保していることや、ほ場を集積し大型高性能機械による低コスト栽培を行っていることが評価された。



【授賞式の様子】